



南蛮美術企画展

池長孟が愛した  
南蛮美術  
出品目録



神戸市立  
博物館

7月5日(土) -  
8月17日(日)

神戸市立博物館の美術コレクションは、兵庫出身のコレクター・池長孟(1891-1955)の収集品が礎となっています。昭和2年(1927)、大阪で二枚の長崎版画を購入したことを契機として、池長は日本近世異国趣味美術の世界に熱中し、約7,000点におよぶコレクションを築きました。昭和15年には、葺合区(現在の中央区)熊内町に私設美術館である池長美術館(現在の神戸市文書館)を設立します。「神戸のような国際大都市にして、美術館の一つも持たないということは、国民教養の程度も察せられて大きな国辱である」—教育者としても活躍し、世界一周旅行中に各地の美術館・博物館を訪れた池長は、私財をなげうち、広く市民に美術に親しんでもらう場をつくったのです。

戦後、美術館は戦災を免れたものの、池長には莫大な財産税を課せられることとなります。昭和26年、コレクションの散逸を憂慮した池長は、神戸市へコレクションと美術館を移譲することを決意しました。現在、池長コレクションは当館を代表するコレクションのひとつとして、広く親しまれています。

本展では、池長コレクションのなかから、狩野内膳「南蛮屏風」や「聖フランシスコ・ザヴィエル像」など、南蛮美術の名品を一堂に展示いたします。池長が心を注いで収集した作品を通して、彼の作品への強い愛情を感じていただければ幸いです。

指定 No.	作者	名称	時代	材質・技法	員数	法量 (cm)
01	小磯良平	池長美術館長像	昭和19年(1944)	油彩・キャンバス	一面	80.3×65.2
02	池長孟	邦彩蛮華大宝鑑	昭和8年(1933)		二冊	(各)31.3×24.5×4.2
参考	池長孟	南蛮美術総目録	昭和30年(1955)		一冊	21.7×5.5×3.5
◎ 03		聖フランシスコ・ザヴィエル像	江戸時代・17世紀初期	紙本著色	一面	61.0×48.7
◎ 04		四都図・世界図屏風	江戸時代・17世紀初期	紙本金地著色	八曲一双	(各)158.7×477.7
◎ 05		泰西王侯騎馬図屏風	桃山～江戸時代・17世紀初期	紙本金地著色	四曲一隻	166.2×460.4
06		西洋風俗図屏風	江戸時代・17世紀初期	紙本著色	六曲一双	116.7×308.6
○ 07	伝 信方	師父二童子図・西洋二武人図	江戸時代・17世紀初期	紙本著色	二面	(師父二童子図)114.6×53.4 (西洋二武人図)114.4×53.6
◎ 08	狩野内膳	南蛮屏風	桃山時代・16世紀末～17世紀初期	紙本金地著色	六曲一双	(各)154.5×363.2
09		豊臣秀吉像	桃山時代・17世紀初期	絹本著色	一幅	81.6×36.9
10	狩野宗秀	都の南蛮寺図	桃山時代・16世紀後期	紙本金地著色	一面	上弦50.6×下弦21.2×幅19.7
11		万国人物図	江戸時代・17世紀半ば	紙本金地著色	三帖	(各)27.9×21.5
12		花下群舞図屏風	桃山時代・17世紀初期	紙本著色	六曲一双	(各)149.3×352.7
13	越前北庄 井関	蒔絵南蛮人文鞍	慶長9年(1604)		一背	(前輪)高さ27.5 幅35.9 (後輪)高さ26.5 幅40.1
14		象嵌南蛮人永楽通宝錢燈	桃山～江戸時代・17世紀前期		一对	長さ26.4 幅13.9 高さ26.8
15		蒔絵鉄砲文大鼓胴	桃山～江戸時代・17世紀初期		一点	高さ27.9 径11.2
16		蒔絵南蛮人洋犬文硯箱	桃山時代・17世紀初期		一合	縦22.0 横20.8 高さ4.3
17		蒔絵南蛮人文箱	桃山～江戸時代・17世紀初期		一合	縦20.6 横8.6 高さ4.0
18		南蛮人散策図柄鏡	江戸時代・17世紀前期		一面	長さ19.8 径9.9
19		南蛮人喫煙図柄鏡	江戸時代・17世紀前期		一面	長さ19.7 径9.7
20		天正かるた版木重箱	版木:桃山～江戸時代・17世紀前期 重箱仕立て:江戸時代・18世紀		三重	全高20.5 縦14.3 横14.3
21	仁清印	色絵うんすんかるた香合	江戸時代・17世紀		一合	縦6.9 横5.0 高さ4.4

※所蔵はすべて神戸市立博物館。

※参考『南蛮美術総目録』をのぞいて、すべて池長孟コレクション。

※◎: 重要文化財 ○: 重要美術品

# 池長孟と池長美術館



池長美術館の玄関前の池長孟  
美術館は昭和15年（1940）に開館し、  
同19年まで展覧会を5回開催した。



池長美術館全景（「池長発行絵葉書」より）  
鉄筋コンクリート3階建ての美術館は、戦災などを想定し、  
防災には細心の注意が払われていた。  
池長から移譲後、昭和57年（1982）3月まで神戸市立南蛮  
美術館として運営された。同年11月3日神戸市立博物館が  
開館後、現在は神戸市文書館として活用されている。



池長美術館 開会式 昭和15年3月30日  
前列右から池長孟、谷崎潤一郎、林重義、川西英、  
大塚銀次郎、後列右から竹中郁、小磯良平、鈴木清一。  
この日は美術家・文化人の招待日だった。  
背後には「泰西王侯騎馬図」が展示されている。

1階学習室の「見るコーナー」では、  
池長コレクションを映像で紹介しています。  
こちらもおわせてご覧ください。

次回展覧会のご案内 古地図企画展 伊能図の世界 — 館蔵品一挙大公開 —  
平成26年8月23日（土）～9月15日（月・祝）  
特別展 メトロポリタン美術館 古代エジプト展 — 女王と女神  
平成26年10月13日（月・祝）～27年1月12日（月・祝）